

(様式1)

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」実績報告書(3年次)

I 学校名等

学 校 名	綾部市立東綾中学校				校長名	野々垣 照美
研 究 主 題	学ぶ意義や目標を持ち、主体的に行動する児童生徒の育成 ～キャリア発達にかかわる資質・能力を育むための新しい時代の授業実践～					
研究の目的	1. 授業改善 ～キャリア教育の視点を取り入れた授業～ (1) 「主体的・対話的で深い学び」(あいのある学習)のある授業づくり (ア)年間計画、学習単元、1時間の授業の見通しづくり(何をどのように学び、何ができるようになるのか?) (イ)授業、単元の終わりの振り返りの充実(何ができるようになったのか、どんな場面で学んだことを活用できるのか?) (ウ)課題解決型学習(キャリア発達を促す指導)の実践 (2)新しい時代(「あい」のある未来の教室)の授業実践の研究 (ア)「思考・判断・表現」の評価研究(単元構想、パフォーマンス課題、評価基準の妥当性) (イ)1人1台タブレットの効果的な活用 2. 家庭学習の充実 ～「8コマ学習」の定着・質の向上～ (1)各教科からの宿題、小テストの実施等による自主学習のきっかけづくりおよび家庭学習を終礼時に計画するサイクルの定着(提出率100%を常態化) (2)家庭学習の質を高める工夫・啓発 ○ タブレットを活用した宿題・家庭学習の研究 3. カリキュラム・マネジメント (1)キャリアに関する各教科・領域の学習内容と「東綾っ子・東綾生のふるまい(未来の担い手として求められる資質・能力を身に付けた児童・生徒の姿)」を具体化・視覚化した掲示物の完成 (2)教科と行事をつなぎ、各教科で学んだことが、どのように取組(総合的な学習の時間・キャリア学習)や日常生活の中で活かせるのかの研究					
学 年	1年	2年	3年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	1	1	1	1	4	23
児 童 生 徒 数	14	10	13	1	38	

2 研究校の概要

(1) 生徒の実態

本校は平成29年度より、施設一体型の小中一貫校となった。

生徒は、学習に真面目に取り組むことができ、相手を思いやる人権意識も高い。保護者や地域も協力的で温かい。一方で、小学校入学時から、同一の小規模集団での学習・生活のため、多様な考えに触れる機会が少なく、互いに切磋琢磨し、高め合う厳しさやたくましさに欠けるところが見られる。

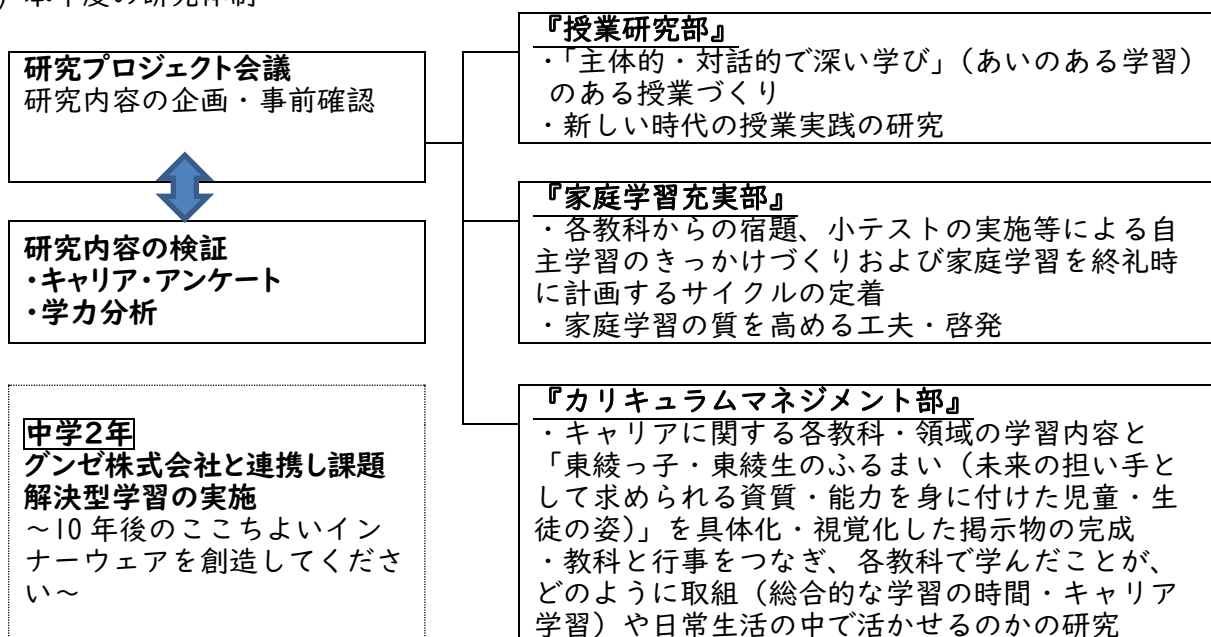
(2) 学力分析

中学2年生については、在籍生徒11名のうち1名が校区外通学をしている。本年度の京都府学力診断テスト(令和3年10月実施)によると、国語(+7.3)、数学(+7.2)、英語(+15.0)とも府平均と比べて上回っている。学力層を見てみると、C層はおらず、B層は3教科とも2名、A層が国語と数学は5名、英語は3名、SA層は国語と数学が1名、英語が3名である。個により課題はあるものの、相対的に見て学力は比較的高いと言える。

一方、非認知能力に関しては、「最後までやり遂げてうれしかった経験がある」「新聞やテレビのニュースに関心がある」という項目が、府との比較で課題が見られると言える。2年生が府学力診断テストを受けたのが10月、課題解決型学習に本格的に取り組み始めたのも10月。

この調査で特に前者に課題が見られたという点が示すとおり、これまで粘り強い取り組みの経験が不足していたと言え、言い換えれば今回の課題解決学習が長期にわたる初めての経験となったと言える。

(3) 本年度の研究体制



3 主な研究活動

(1) 東綾小中一貫校研究部の取組

月	日	曜	会議	実施内容等
4	21	水	研究プロジェクト会議	本年度の研究方針確認
5	12	水	校内研究の日・部会	研究方針・家庭学習確認・部会
5	17	月	研究プロジェクト会議	授業部《計画訪問指導案作成について》
	26	水	校内研究の日	家庭学習《1学期の取組提案》 カリマネ《年間の見通し》
6	14	月	研究プロジェクト会議	1学期授業研究会(中学校3年英語)
	21	月	校内研究の日	授業部より(タブレット活用)
	17	木	市計画訪問	
7月2週				授業(道徳)パワーアップ week
7	19	月	研究プロジェクト会議	学力充実(分析交流)
	27	火	校内研究の日	カリマネ1学期総括(30分)
8	23	月	研究プロジェクト会議	8コマ学習1学期総括・2学期に向けて
	25	水	校内研究の日	カリマネ2学期に向けて(15分)
9	13	月	研究プロジェクト会議	授業部より(タブレット活用)
	22	水	校内研究の日	2学期事前研
10	18	月	研究プロジェクト会議	授業部(P-up ウィークまとめ)
	27	水	校内研究の日	2学期授業研究会(小学校3・4年数学)
11	15	月	研究プロジェクト会議	未来の担い手授業
	18	木	一貫教育報告会	
	24	水	研究プロジェクト会議	出席簿の確認(校務支援システム)
12月第1週				授業(道徳)パワーアップ week
12	13	月	研究プロジェクト会議	8コマ学習2学期総括・3学期に向けて
	5/6	月	校内研究の日・部会	カリマネ2学期総括

1	17	月	校内研究の日・研プロ	カリマネ3学期に向けて 授業部より(タブレット利活用) 3学期授業研究会
	26	水	校内研究の日	
1月4週~2月3週				小中授業パワーアップ weeks
2	21	月	研究プロジェクト会議	年度総括・各部総括
	28	月	校内研究の日・部会	

*年間を通して**授業パワーアップイヤー《タブレット活用等・教科授業を中心に》**



(2) 企業連携の取組(中2)

月	日	曜	学習内容等	留意点等	時数
10	13	水	課題との出会い・今後の見通し		1
10	14	木	グンゼ博物苑訪問	最新のインナーウェアについて知る/インタビュー	2,3
10	15	金	アンケート作成	アンケートフォーム作成	4
10	18	月	原案作成		5,6
10	20	水	原案作成/中間発表に向けて	アンケート集約・分析/パワーポイント作成	7-10
10	28	木			
11	2	火	中間発表①	生徒・教師から質問や意見をつのる	11
11	11	木	中間発表②	グンゼの方々に発表し、意見をいただく	12
11	18	木	練り直し	中間発表から意見を練り直す	13
11	25	木	練り直し	案の修正	14
12	2	木	最終発表に向けて	パワーポイント修正	15-17
12	7	火	グンゼ最終プレゼン	最終案をプレゼンする	18-19
12	17	金	最終練り直し	アドバイスをもとに修正する。	20
12	22	水	最終発表会	在校生に最終発表をする。	21

4 今年度の研究の成果と検証

(1) 全般を通して

昨年度に引き続き、本年度はあらゆる教育活動の中で、キャリアの視点「こ(行動する力)は(働きかける力)か(解決する力)せ(設計する力)」を大切にしてきた。これはここ数年間の本校の児童生徒に課題があると考えられる項目を、本校独自の育みたいキャリアの視点として共有し、小中一貫して研究の柱に据えている項目である。

小中一貫校の児童生徒の「こはかせ」の力にどのような変容が見られるかを計る目的で各学期にキャリア・アンケートを実施した(3月に第3回実施予定)。各教科で課題解決型学習、キャリアの視点(こはかせ)での授業改善、企業連携学習(中2)やふるさと学習(中1)を通して、「正解のない問いへのアプローチ方法を考えたり、未知の状況に対応したりしている」で大きな伸びが見られた他、特に中学校では「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」という問いに対して、すべての生徒が肯定的な答えを回答した。

(2) 授業改善

学習指導案作成の際に、どのように「こはかせ」を育成するのかを明記した。また本年度はタブレットを活用して評価するパフォーマンス課題を各教科で取り組んできた。例年に比べ、自分で考え、調べ、まとめて発表する機会が増えたと言える。京都府学力診断テスト(中2)質問紙の結果からも、「自分を高める力」「やるべきことを自覚しすすめる力」等のポイントは府平均と比較しても高い数値となっている。

(3) 主体的に学ぶ生徒の育成

家庭学習を意識した授業構成を考えたことで、少しずつではあるが、家庭学習の習慣化につながっているのではないかと考える。またタブレットを活用して家庭学習に取り組む生徒も見られ、これまでの8コマノート(自主学習ノート)の提出ではない形での家庭学習の形が見られるようになった。

また企業連携の発表に向け、取組前からタブレットを活用し、プレゼンテーションを繰り返し行ってきた。キャリア・アンケートや京都府学力診断テストの質問紙からも「行動する力」「解決する力」に関する問いで肯定的な回答、府との比較で高い数値が多く見られた。この状況から考察できることとして、企業連携の取組、特に二次元コードを使用するアンケート作成・集計を通して「必要な情報を収集し、仮説を立てる」という経験や、プレゼンテーション資料の作成や発表を通して、「自分たちの考えをまとめて、わかりやすく伝える」という経験が自信につながったのではないかとと思われる。

(4) カリキュラム・マネジメント

中学2年生の企業連携の取組の中で、二次元コードを用いたアンケートを実施した。保護者に配布するだけでなく、他中学に協力を求めたり、学校ホームページに掲載したり、あやべ市民新聞社に取材をしていただき、紙面に二次元コードを掲載していただいたりした。その結果、2000を超える回答を得た。その結果から、社会科や理科、家庭科等で学んだ知識、技能を用いて仮説を立て、検証する生徒も見られた。また発表の内容から、英語や理科、技術科で学びを広げる等、教科と企業連携の取組をつなぐカリキュラム・マネジメントが進んだのが本年度の大きな成果と言える。

5 今年度の課題

(1) 授業改善にかかわって

キャリアの視点(こはかせ)に焦点を絞り共通確認し、授業づくりをそれぞれ進めることができた。反面、コロナ禍にあって1つの授業を全教職員で参観し、児童生徒のキャリア発達を促す指導について協議することが難しい状況であった。

(2) 主体的に学ぶ生徒の育成にかかわって

家庭学習を推進するために、学習材料(プリント等)を生徒自身が興味や習得状況に応じて選べるようにしたり、各教科担当が提出した日に確認して返却したりするシステムを構築できた。一方で、タブレット活用による学習など、家庭学習の状況を把握することが難しくなっている。そのシステムを把握する手段を講じる必要を感じた。

(3) カリキュラム・マネジメントにかかわって

企業連携の取組ではアンケートを実施して、客観的データをもとに課題を解決し、さらにその内容をプレゼンテーションする力を育めたのは大きな成果と考える。多くの時間を企業連携の取組に充てることができたが、来年度以降、膨大な時間をこの取組にかけるのは難しいと考える。各教科と連携し、より効率よく学習を進める計画を立てる必要がある。また1人1台のタブレットを利活用し、オンラインでの企業との連携やシンキングツールの活用でより効率よく効果的な学習を進めることができないかと考える。

6 事後終了後の研究構想

次年度は本年度までの研究を発展させる形で、研究をすすめる予定である。

(1) 研究主題

学ぶ意義や目標を持ち、主体的に行動する児童生徒の育成

～キャリアの資質能力をさらに高めるための新しい時代の授業実践～

(2) ねらい・意図

これからの新しい時代を生き抜く人材の育成を目的に、日々の授業実践から課題解決型学習をより効果的にスムーズに行えるよう、1人1台のタブレットを効果的に利活用しながら授業改善をすすめる。